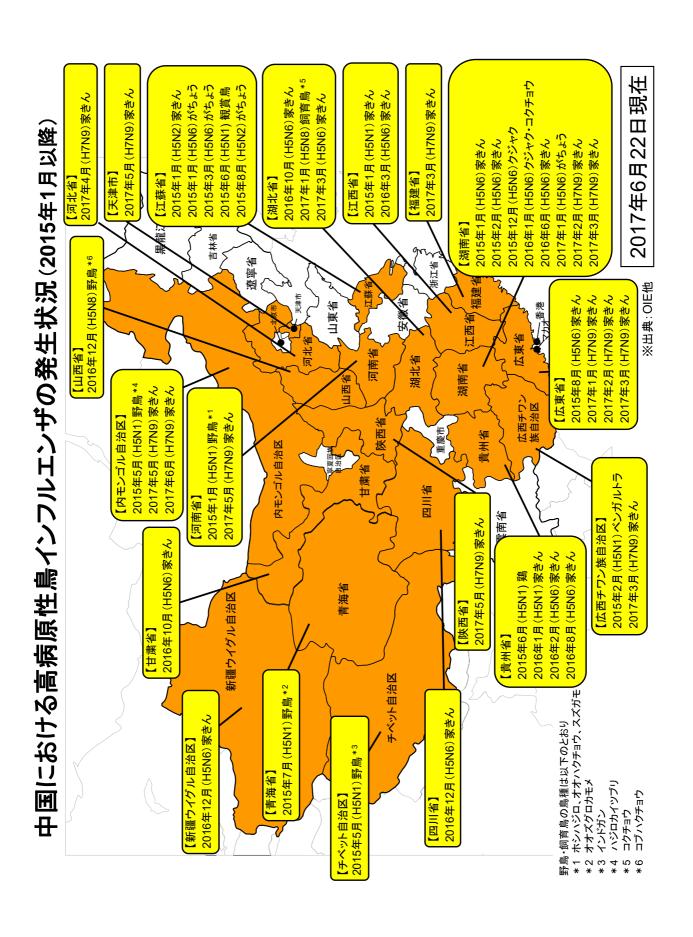


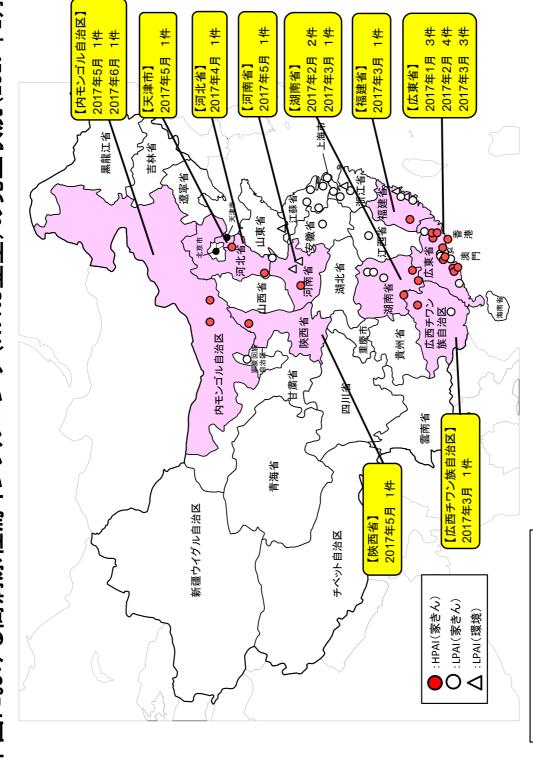
2017年6月22日現在 35件 韓国における高病原性鳥インフルエンザ(H5N8亜型)の発生状況 (2017年6月以降) 24年 発生件数 蔚山広域市 南区 蔚州郡 釜山広域市 機張郡 2件 世宗特別自治市 大田広域市 大邱広域市 4 # # 慶尚 南湖 黎 東京 東京 東京 西城市 国城郡 済州特別自治道 済州市 6件 慶尚北道 江原道 忠清北道 ソウル特別市 光州広域市 0 全羅南道 🥒 D 仁川広域市 4 忠清南道 0 坡州市 京畿道 群益完全任淳山山州州實昌市市郡市郡郡郡 全羅北道 ●:家きんでの事例

※出典:OIE、韓国農林畜産食品部

121



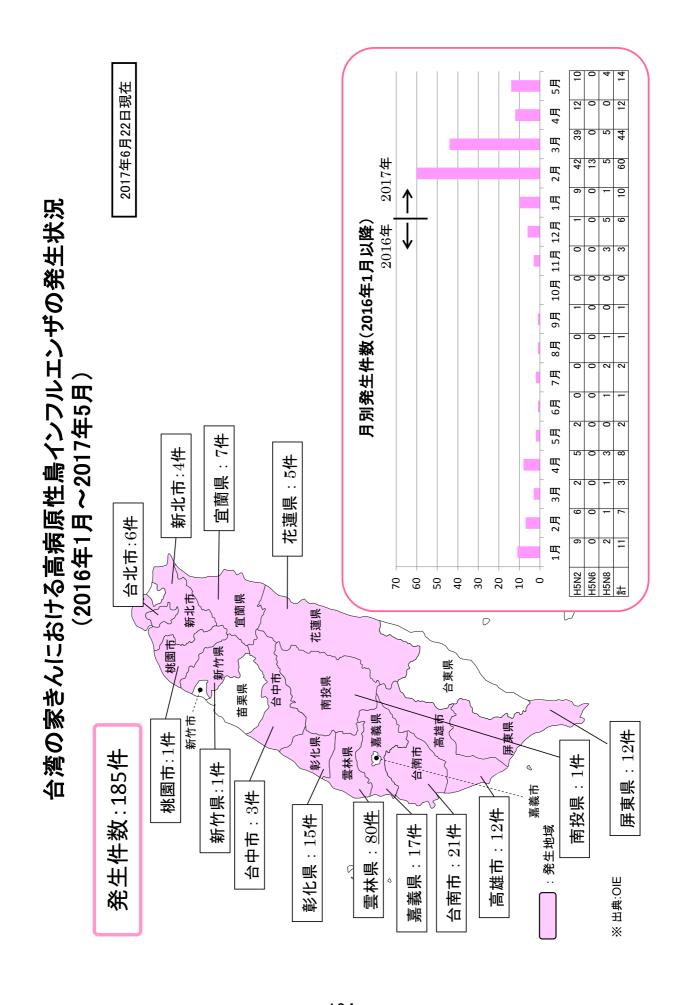
中国における高病原性鳥インフルエンザ(H7N9亜型)の発生状況(2017年1月以降)

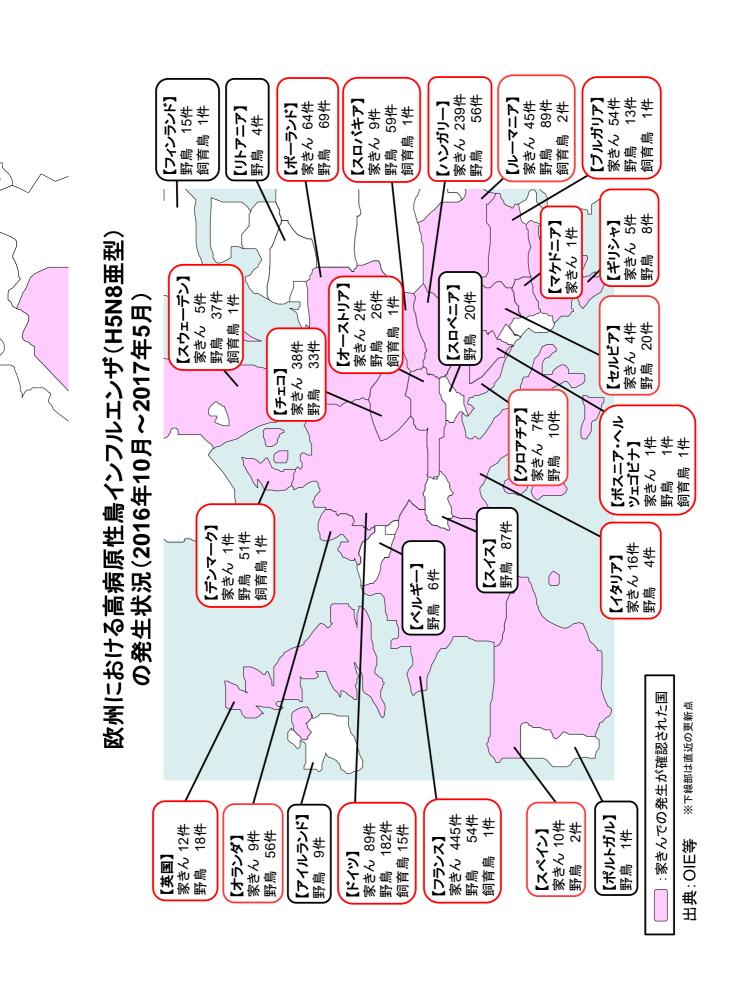


※低病原性鳥インフルエンザ(H7N9)は、2013年4月4日~2014年6月3日までに、12省・市で43件確認

2017年6月22日現在

※出典: OIE





参考3:「5.総合的考察」関連

平成28-29年の高病原性鳥インフルエンザ発生に係る分析

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門 疫学ユニット

【背景】

- ・ 今回発生事例が認められた12事例のうち、11事例で発生農場の近隣に池や沼、川があることが 確認。
- ・ 池や沼、川などの水辺は、野鳥の飛来が想定され、ここで高病原性鳥インフルエンザウイルス に暴露された野鳥、ねずみ等の野生動物が、農場へのウイルスの侵入要因になる可能性が考え られることから、これらの農場近隣の水辺と発生の有無の関連について分析を実施。

【方法】

発生農場(ケース)における水辺の有無とランダムに選んだ非発生農場(コントロール)における水辺の有無を比較した場合、発生農場で周辺に水辺のある農場が有意に多ければ、水辺が発生と関連していると考えられる(ケースコントロール研究)。

発生農場から半径20km以内にある、飼養羽数5,000羽以上の農場から、発生農場1農場につき最大4農場をコントロール農場としてランダムに抽出した。採卵鶏農場又は肉用鶏農場の別はそれぞれ発生農場に合わせた。該当する農場が半径20km以内に3農場以下である場合は、全てをコントロール農場とした。発生農場のうち、青森県の発生農場(2戸)については、該当するコントロール農場が存在しなかったことから、分析の対象外とした。

発生農場及びコントロール農場について、地理情報システムを用いて農場周辺画像を確認し、農場の鶏舎から50m以内に水辺(池、沼又は川)がある場合、「水辺あり」と判定し、発生の有無と水辺の有無の関係について条件付きロジスティック回帰分析を行った。

【結果】

発生の有無と水の有無を集計したところ表のとおりとなり、条件付きロジスティック回帰分析により、発生農場では、周辺に水辺のある農場が有意に多いことが示された (P値: < 0.001)。

表発生の有無と水辺の有無の集計結果

		発生の有無				
		あり	なし	合計		
水辺の有無	あり	9	7	16		
	なし	1	27	28		
	合計	10	34	44		

(農場数)

【考察】

今期の国内発生においては、農場近隣の水辺の有無が発生のリスク要因となっていた可能性が示された。水辺の存在がどのように発生に関わっているか、また、過去の国内発生においても関連があったのかどうかなどについては、さらに分析が必要と考えられた。

参考4:「6.提言」関連

高病原性鳥インフルエンザ防疫対応状況(岩手県)

【鶏飼養状況】

肉用鶏農場: 395戸 2,376万羽 採卵鶏農場: 58戸 623万羽 種鶏場: 58戸 124万羽

【ウイルス検出状況】

時期(回収日):H28.11.23~H29.3.8

場所:盛岡市、滝沢市、一関市、花巻市、

大船渡市、紫波町

鳥種:オオハクチョウ、コハクチョウ、マガモ、

オオバン

株数:H5N6亜型 20株



【対応状況】※通常実施する防疫対策に加え、独自に強化した対策のポイント

従来から生産者が実施している対策

● 野生鳥獣対策

- ・ため池等への防鳥ネット、テグス設置 (野鳥、水鳥の飛来防止)
- ・管理者自ら、殺鼠剤等でネズミ駆除
- ・鶏舎の破損箇所や防鳥ネットの定期的な点検、補修

● 消毒

- 農場敷地内、鶏舎周囲への石灰散布
- 鶏舎前室内に消毒槽設置
- ・衛生管理区域への入場時に車両、手 指、履物を消毒

● 管理

- ・鶏舎内専用履物に履替
- ・養鶏関係者との接触制限(12~3月)

H28年度に生産者が追加実施した対策

● 野生鳥獣対策

- ・積雪で切れないロープに交換、反射テープを追加設置
- 専門業者にネズミ駆除を委託(回数増)
- ・H28年11~12月に鶏舎の隙間や防鳥ネットの一斉点検、補修を実施

● 消毒

- •石灰散布回数増(秋季から開始)
- 鶏舎前室全面への石灰散布
- ・衛生管理区域から退場時も、車両、手指、 履物を消毒

● 管理

- •履物を4種用意(通勤用、衛生管理区域 外用、同内用、鶏舎内用)、履替
- ・養鶏関係者との接触制限延長(11~4月)

● ため池の野鳥飛来防止対策





● 独自の消毒対応





● サービスルームでの履替、消毒の強化





高病原性鳥インフルエンザ防疫対応状況(茨城県)

【鶏飼養状況】

肉用鶏農場: 58戸 180万羽 採卵鶏農場: 183戸 1,350万羽

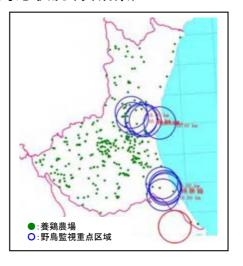
【ウイルス検出状況】

時期(回収日):H28.11.29~H29.1.24

場所:水戸市、ひたちなか市、鹿嶋市、潮来市

鳥種:コブハクチョウ、コクチョウ、ユリカモメ等

株数:H5N6亜型 62株



【対応状況】 ※通常実施する防疫対策に加え、独自に強化した対策のポイント

① 県の対応

- 県内の野鳥発生時の対応
- 野鳥発見場所の消毒の支援
- 市町村を対象とした防疫対策会議の開催
- 死亡野鳥の解剖写真等を活用し、分離ウイルスが強毒であることの周知徹底

● 農場消毒の強化

- 農場消毒のポイントの指導(リーフレット配布)
- 家畜保健衛生所における野鳥の検査体制の強化(正確な発生状況の把握)
- 土日・休日の検査体制強化(年末年始を含めた検査対応)
- 簡易検査実施後, 病性鑑定施設でウイルス分離
- 簡易検査陽性個体及びウイルス分離個体のPCRによるH亜型(A型、H5、H7)判定
- 湖沼の糞便検査(県内12湖沼2回/月 1湖沼50検体)

● 万一に備えた体制整備

• 連携協定先(産廃業協会、ペストコントロール協会、建設業協会、動物用医薬品器 材協会等)との情報共有並びに焼却施設の現地確認及び連携協定締結

② 市町村, 団体の対応

● 市町村

- 死亡野鳥検査への協力
- 野鳥陽性事例市におけるウイルス拡散防止対策(消石灰散布,立入制限,イベント中止、市民への広報)

● 団 体

• 鹿島地区飼料工場懇話会(12社)による飼料運搬車の消毒強化

● 水戸市の湖沼におけるウイルス拡散防止対策



● 生産者等への周知用資料 (野鳥検出株が強毒タイプあることを可視的に説明)



● 野鳥監視重点区域の指定・解除

_ 野馬鱼比重然色次0°1122 肝脉											
地区名	発見場所	発見日	回収日	指定日	鳥種	陽性延べ羽数	最終回収日	指定最終日 (45日後)			
水戸・ひたちなか	水戸市大塚池	11月29日	11月29日	12月2日	オオハクチョウ	57	1月24日	3月10日			
	水戸市千波湖	12月6日	12月6日	12月6日	ユリカモメ						
	水戸市桜川	12月19日	12月19日	12月19日	コクチョウ						
	水戸市泉町	12月15日	12月15日	12月19日	ユリカモメ						
	水戸市田野町 (楮川ダム)	12月20日	12月21日	12月26日	ホシハジロ						
	ひたちなか市田宮原 (名平洞)	12月24日	12月26日	12月26日	ユリカモメ						
潮来・鹿嶋	鹿嶋市須賀 (北浦)	12月18日	12月19日	12月19日	ユリカモメ	5	1月19日	3月5日			
	鹿嶋市爪木 (北浦)	12月25日	12月26日	1月4日	ユリカモメ						
	鹿嶋市沼尾 (北浦)	12月28日	12月28日	1月4日	オオハクチョウ						
	潮来市前川 (北浦)	1月11日	1月11日	1月17日	オオハクチョウ						
	鹿嶋市中 (北浦)	1月19日	1月19日	1月24日	オオハクチョウ						

高病原性鳥インフルエンザ防疫対応状況(鹿児島県)

【鶏飼養状況】

肉用鶏農場: 597戸 2,887万羽 採卵鶏農場: 226戸 1,229万羽 種鶏場: 96戸 196万羽

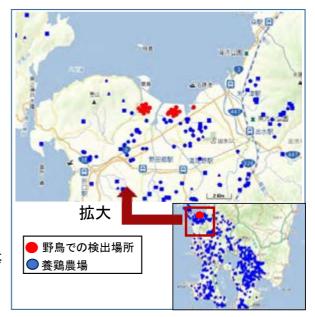
【ウイルス検出状況】

時期(回収日):H28.11.18~H29.2.19

場所:出水市

鳥種:ナベヅル、ヒドリガモ、ねぐらの水等

株数:H5N6亜型 30株



【対応状況】 ※通常実施する防疫対策に加え、独自に強化した対策のポイント

① 県の対応

- 対策本部の設置(ツルのねぐらの水からの検出を受け設置)
- ●配合飼料関連事業者との意見交換会 製造・配送過程における防疫体制を協議, 飼料運搬車両の消毒徹底等の防疫レベルを強化
- 農場の指導
 - ・平成28年11月までの指導時において、飼養衛生管理基準の遵守状況に不備のあった約50農場に対して改善指導を継続して行い、全ての農場で改善を確認
 - ・湖沼周辺概ね1km圏内の家きん飼養農場に対し、防鳥ネット等の定期点検や消毒の徹底を改めて指導
- 農場の緊急消毒に加え、食鳥処理場・鶏卵処理場(県内22か所)を消石灰消毒

② 出水市の対応

- 県ツル保護会の監視(死亡・衰弱ツル類の早期発見・回収)による感染拡大防止
- ツルのねぐら周辺に消毒ポイント(26筒所)を設置
- 散水車による東干拓、ツル観察センター付近の道路消毒
- 市内の宿泊施設、養鶏農場、愛玩鶏飼養者等へ消毒薬を配布

③ 生産者(団体)の取組

- 農場内の消毒の徹底
- 他の農場・事務所への立入禁止、集会・会合の開催自粛

出水市独自の消毒対応(消毒P)①



出水市独自の消毒対応(消毒P) ③



出水市独自の消毒対応(消毒P) ②



養鶏団体独自の消毒対応(農場消毒)④



養鶏団体独自の消毒対応(農場消毒)⑤



1 高病原性鳥インフルエンザ疫学調査チーム委員名簿

伊藤 壽啓 国立大学法人鳥取大学農学部共同獣医学科教授 (チーム長)

内山 保彦 新潟県下越家畜保健衛生所防疫課長

金井 裕 公益財団法人日本野鳥の会参与

鎌田 博志 宮崎県都城家畜保健衛生所主幹

小林 淳壱 新潟県上越家畜保健衛生所次長兼企画指導課長

小林 創太* 国立研究開発法人農業·食品産業技術総合研究機構

動物衛生研究部門ウイルス・疫学研究領域疫学ユニット主任研

究員(平成29年3月まで)

西藤 岳彦 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

動物衛生研究部門越境性感染症研究領域長

坂元 依子 千葉県中央家畜保健衛生所衛生指導課長

佐藤 尚人 青森県青森家畜保健衛生所病性鑑定課長

柴田 千尋 宮城県大河原家畜保健衛生所技術主査

白田 一敏 株式会社ピーピーキューシー専務取締役

寺師 恭代 岐阜県農政部畜産課衛生防疫係主任技師(平成29年4月まで)

筒井 俊之 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

動物衛生研究部門ウイルス・疫学研究領域長

中田 剛司 北海道胆振家畜保健衛生所予防課長

長野 博子 岐阜県農政部畜産課家畜防疫対策監

原口 信江 佐賀県北部家畜保健衛生所衛生課長

林 敏展 青森県農林水産部畜産課主査

平山 栄一* 新潟県上越家畜保健衛生所防疫課長(平成29年3月まで)

村井 清和 国立研究開発法人農業·食品産業技術総合研究機構

動物衛生研究部門ウイルス・疫学研究領域疫学ユニット研究員

森口 紗千子 国立大学法人新潟大学自然科学研究科特任助教

山口剛士 国立大学法人鳥取大学農学部共同獣医学科教授

山下 利治 熊本県城南家畜保健衛生所主幹兼防疫課長

山本 健久 国立研究開発法人農業·食品産業技術総合研究機構

動物衛生研究部門ウイルス・疫学研究領域疫学ユニット長

米田 久美子 一般財団法人自然環境研究センター研究主幹

(*:所属・役職名は委員在任時)

2 事務局

農林水產省消費·安全局動物衛生課

3 高病原性鳥インフルエンザ疫学調査チーム検討会

第1回検討会 平成29年1月30日 第2回検討会 平成29年5月11日

4 公表日

平成29年6月29日